

4年生

「みんなにやさしいまち」



成果 と 課題

<成果>

●「みんな」とはだれのことか? 「やさしい」とはどういうことなのか? をよく考えることから学習をスタートした。いろいろな立場の人の視点や気持ちを考えられるようになることをねらいとした。

・みんなで協力してまちづくりを行っていく気持ち・公園など誰もが安心して暮らせるようにしてくれている・ものをつくってくれている人の存在を知ることができた。

・公園に実際に足を運んで、福祉に関するものの写真を撮るなど、情報収集をすることができた。

・書籍やインターネットを活用して、バリアフリーやユニバーサルデザインなど必要な情報を集めることができた。

・タブレット(ロイロノート)を活用して、考えを共有したり、思いを伝えたりすることができた。

・視覚や聴覚に障害のある人をゲストに呼び、直接お話を伺うことができた。また、聞きたかった質問をすることができた。

<本時の様子>

バリアフリー・ユニバーサルデザインの効果について整理・分析することで、その効果についての考えを深めることができる。

公園の水道の蛇口は、力を入れなくても水が出せるように工夫されていたね。



駅の改札が広がっているのは、車いすの利用者だけでなく、ベビーカーを押す人にも助かるね。

たくさんの方が利用する場所には、様々な「やさしい工夫」があるんだね。



<課題>

・「福祉」という観点で気付くことができたが、4年生として自分たちに何ができるか考えることが難しい。できることは「気持ちの問題」であり、それを高める手立てやその教材化が難しい。

・コロナ禍の様々な制限のため、子供自身が現場に行って写真を撮ることができず、意欲が高まらなかった。直接、自分の手で写真を撮っていれば荻窪のまちへの関心の高まりが期待できた。

・ゲストの方にお話を伺う前に、体験等の学習を通して、「福祉」について身近なものとしての問題意識を高めておくべきだった。

・子供同士での関わりを増やすことで、学びにもっと深まりをもたせるべきだった。